

「かけ算(1)(2)」

1 提案の主張点

「かけ算」単元における学習指導の工夫として、次の3つに視点をあてて研究を進めている。

(1) 本質に迫るための算数的活動の工夫と教材・教具の開発

かけ算の場面づくりを、具体物を操作する「算数的活動」を取り入れることにより「1あたりの数」×「いくつ分」の意識の徹底化を図った。また、かけ算の概念をつかませるために児童自らが具体物を操作して構成したり、答えを具体物と照らし合わせて、確かめたりする学習を取り入れた。3の段で、ごっこ遊びを取り入れ操作できるようにした結果、「1つ分の数」の理解が深まり、子どもの学習に対する興味・関心を一層高め、楽しく学ぶことにつながった。

(2) 単元の基礎・基本の定着を図る段階的・発展問題の工夫、

具体物 絵 立式 言葉で説明 絵や図に表して説明と、次第に抽象化を図って学習を進めていくことで、単なる暗唱にとどまらず、かけ算の概念を再認識し、数学的な考えの基礎を確立できた。また、パズル式かけ算クイズでゲーム化したり、実際に町に出て九九を見つけ、生活場面からの問題づくりをしたりして応用力を高めることができた。問題文を書かせることにより、「1つ分」を意識し、「かける数」と「かけられる数」が反対にならないようにした。

(3) 少人数指導での評価のあり方

自己評価カードを利用したり、算数日記を書かせたりすることにより、児童が受け身の学習でなく、学習の主体者であるという意識をもって学習に取り組めるようにした。少人数指導において個を見つめることにより、個の実態に合った課題を設定、的確な評価がきた。単元全体を通して児童の様子を継続的に記録し児童のつまずきへの支援や教師間の情報交換に役立った。

2 提案に対する意見

操作して学んだことを活用する場があつてよかった。算数的生活経験の乏しさを補っていく必要性を実感してる。生活と結びつけながら「単分量」×「いく

つ分」を徹底していきたい。

学力低下が叫ばれ、ドリル学習をする機会も増えているが、算数的活動を入れることにより基礎学力の向上も図れたのだろうか。

身近な場面の絵の中に、かけ算になる場合とならない場合を入れて考えさせることで数学的思考力が高まっただろう。立式の時、お話づくりを入れておけば、町でのかけ算見つけにつながりやすい。

3 御指導

子どもたちをあきさせない工夫が随所にあり、自分の成長が振り返れるワークシートにより学習の積み上げがあった。多様な具体物 半具体物 式へと抽象化する学習過程が大切。「チューリップの1本をここに植え替えたなら同じになるのに」という児童の発言は素晴らしい。意識せずにジャンプアップできていた。

絶対評価をもとに児童の変容を見ていこうとしており、継続的に記録、自己評価できている。算数日記に書かれている言葉は、単に感想だけにとどまらず、「

さんの計算の仕方を手本としたい」と算数的な見方ができている。児童に絶対評価を示すことで、より充実した評価ができる。

乗法が用いられる場合を知るという学習がどうされてきたのか、乗法九九を構成するためにどんな学習をしていくのかしっかり考えてみたい。

問題づくりをすることにより本当にかかけ算が理解できているか確認できた。

発展的内容としてパズルが出ていたが、かけ算の場面を変えてもできるのか、散りばめた数でもできるのかを確かめることができた。

評価は、より簡便で普段に使えるものがよい。負担にならないように考えてほしい。学習内容に裏付けられたものであり、子どもが「わかった」「できた」という評価ができるものがよい。そして、実践した足跡を残して次年度に送ることで、評価基準の積み上げが期待できる。

